

○ 本校の概要

本校は大田区の東部に位置する羽田と東糀谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級6学級と特別支援学級2学級の生徒162名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のみならず、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深く自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けている学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
						評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: A 80%以上 B 70%以上	4	・外国語指導員を活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。各学年ともに、指導員とも交代り成果を上げた。 ・ものづくり学習フォーラム等学校外での体験活動がなかった。校内で、「おたものづくり」を意識した授業に取り組んだ。コロナ禍の中、作品展示会を開催し、生徒が取り組んだ成果を発表した。数学の少人数授業で基礎・基本を徹底しているが、基礎・基本とともに、応用・活用を意識して指導することが必要である。 ・大田区教育推進校としての研究を進め、ICT機器の活用は大きく進んだ。すべての教員が日常からICT機器を活用するとともに、対話的で深い学びとなる授業が多く行われるようになった。また、タブレットパソコンを使用しての家庭学習をすすめた結果、東京都の平均より家庭学習をしない生徒が減るなど大きな成果をあげた。 ・特別な教科道徳では毎時間の道徳の授業を人権教育も含めて指導した。道徳に関する授業の意識は大きく高まった。 ・コロナ禍で、部活動の取り組みが少なく、体力テストの低下を心配している。授業において、技能とともに体力の増強を意識して行っている。 ・保護者アンケートでは、「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合が85.8%となり、前年度より7.1%上昇した。また、「教育目標や指導方針を明確に示していた」とも73.5%となり1.1%上昇している。生徒の「どのような生徒を育てたいか知っている」という回答は64.4%と2.1%上昇している。ICTの活用の研究に全校で取り組み、成果が提示できたことで、学校としての指導の方向性が保護者、生徒に伝わったと思われる。	A 12	・地域の教育資源として大田区の企業や町工場から「おたものづくり」を意識した授業支援の可能性を感じています。 ・タブレットを活用して自分の考えをまとめ、他の生徒の考えを聞き知ることで、対話的で能動的な学びを実践していく授業はコミュニケーション能力の育成に大きな効果があるように思います。 ・大田区教育推進校としてICT開きの導入による生徒の学力向上などは評価できる。 ・コロナ禍でもものづくり学習フォーラム等学校外で体験学習ができなかったことが残念であるが、教員の方々の努力が感じられ引き続き強化をお願いしたい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3: A 60%以上 B 50%以上				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	A 保護者アンケートで「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	B 生徒アンケートで「どのような生徒を育てたいか知っている」と回答した生徒の割合				
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4: A 80%以上 B 80%以上	4	・教員が生徒一人ひとりの学習状態をよくつかんでいる。さらに、寄り添って成果をあげさせることで、生徒の意欲向上につなげている。 ・保護者への生徒の学習状況の伝達は、ステップ学習チェックシートと別様式で行っているが、より小さいステップでの意識づけが必要である。 ・補習(学習)教室への参加者が前年度比150%の昨年度よりさらに増加した。土曜補習(学習)教室は、平均25名程度参加し、32名(通常級の20%)が参加する回もあった。 ・授業改善プランは、全教員が関わり作成している。全教員がおおむね授業に生かすことができていると回答している。 ・NIEを取り入れた指導は、丁寧に細かく行い、言語能力や探求能力等の育成に大きく寄与している。行うことができない行事があったが、新聞の作成により能力を高めることはできた。 ・「チームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸ばしよう」と回答した保護者の割合は84.1%であった。また、生徒の割合は、81.5%であった。保護者アンケートは3.8%、生徒アンケートは7.6%上昇している。	A 9 B 3 C D	・小規模校ならではの先生方が寄り添った指導をしてくださっていることに感謝します。 ・「チームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施した」の項目において、前年より上回ったことは評価されるものである。 ・補習教室への参加数も前年より増えているなど評価できる。 ・「授業改善プラン」が授業に活かすことができていることも評価できる。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: A 60%以上 B 60%以上				
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	B 生徒アンケートで「チームティーチング、少人数指導、補習教室などの取り組みは、生徒の学力を伸ばすために役にたっている」と回答した生徒の割合				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: A 40%未満 B 40%未満				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: A 80%以上 B 1%低下	3	・組織的に生活指導に取り組むことができた。ほほすべての生徒が予鈴で登校し、自然に規律を守る状態となっている。 ・道徳の授業は、研究においてICTを用いた授業づくりをグループで行ったことにより、ICTを用いた対話的な授業が多く行われるようになった。 ・学校生活調査、QUの結果を用いて、生徒への対応を着実に進めた。不安傾向が強い生徒が多く、不登校やメンタル面で課題の行動の要因となっている。起きてからの個別対応のみならず、予防的な取組が必要である。早期発見への取組の意識は、教員の中で非常に高い。デイリーライフの点検、見守り活動を充実させている。未然防止の観点から、学校生活を魅力的にするための取組を充実させる必要がある。 ・学校での問題行動のケース会議を行う事業が今年度はなかった。メンタル面での課題を持つ生徒への対応のための個別ケース会議を多く行った。学年・SC・SR・部活動などの連携により、課題が改善した事例が生じた。 ・昨年度11%上昇した「いじめや不登校の課題」に、きちんと対応していた項目への肯定的な回答した保護者の割合は、58.4%と5.6%上昇した。いまだ、50%台であるが「わからない・無回答」を除いた回答の中での肯定的な回答の割合は、90.4%であり、取組が見えている保護者からは評価されている。しかし、不登校生徒は、昨年度と同様であり、予防的な指導がさらに必要とされる。生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題」に、きちんと対応していた項目に肯定的に回答した生徒の割合は、63.7%であり、昨年度と同様の数値であった。	A 6 B 5 C 1 D	・ストレスや不安傾向は、感染症による行動制限等の影響が生徒の間でも大きくなっていることによると思いますが、次年度は魅力的な学校生活への行事や、特別活動を様々な工夫をして実施して欲しいと思います。地域でも協力したいです。 ・ケース会議は、民生委員は今年度出席することはありませんでした。他校では何回かあったようで、問題がある生徒の連絡も頂いていたので、今後は関わらせていただきたいです。 ・生徒、保護者、教員とのコミュニケーションを取っていくことが大事、上手いかわない点もあったと思われませんが、保護者の見解も含めさらに強化してほしい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: A 60%以上 B 0.5%以上 低下				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	A 保護者アンケートで「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	B 不登校生徒の割合				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: A 90%以上 B 80%以上	3	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動に、学校として取り組んだ。習慣化することを意識して取り組んだ。 ・栄養士による食育の指導や、毎日の給食を通しての食育を充実に行うことができた。 ・コロナ禍において、生活習慣が乱れることを防ぐため、小まめに生徒への指導、保護者への連絡を行った。メンタル面で課題がある生徒の生活習慣の乱れが多生じ、解決を妨げる要因となっている。 ・保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」に肯定的に回答した保護者の割合は86.7%であり、昨年度から4.6%低下した。また、生徒の「生徒は、元気に登校し、楽しい学校生活を送っている」の回答は、77.4%でありわずかな上昇に留まった。体育祭・文化祭とできる範囲で生徒活動を行ったが、コロナ禍での行動制限によるストレスが影響していると思われる。また、「健康な生活を送るための指導をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は82.9%であった。 ・給食への肯定的な評価は生徒93.8%、保護者95.6%であり、非常に高い。栄養士を中心とした取り組みが成果をあげているとともに、保護者が学校に肯定的な目で見えるようになったことがうかがえる。	A 8 B 4 C D	・校内で給食の歴史等の紹介掲示を見る機会がありました。とてもわかりやすい内容で、身体づくりの大切な時期の中学生にとって、とても有意義な実践だと感じました。 ・食育は大切である。授業・部活・給食などを通して、生徒一人ひとりが健康的な生活を送ったことと思う。 ・栄養士、給食調理員の方々の努力を評価する。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	A 保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	B 生徒アンケートで「健康な生活を送るための指導をしている」と回答した生徒の割合				
		デイリーライフ(生活ノート)の点検や休み時間・空き時間に生徒を見守り、生徒がいつでも相談できる環境をつくる。	1: A 40%未満 B 0.5%以上 上昇				

プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくれます。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: A 80% 以上 B 90% 以上	4 ・ICTの活用を研究テーマとして、研究推進校の取り組みを行い、その中でOJTを通して、効果的な使用方法を各自が研修できた。特に、学年等のグループでの授業づくりにより研修がすすみ、多くの授業でICTを使うことが大きく増えている。 ・支援委員会及び、SR委員会を週1回定期的に行い、不登校・いじめのチーム支援をした。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。個々の特性に応じた支援がすすみ、SRに入休する生徒が増えた。 ・非常に落ち着いた授業、学校生活が展開されており、生徒アンケートの「授業は規律正しく落ち着いた」というアンケートに肯定的に回答した生徒は86.3%、保護者は70.8%であり、昨年度より生徒は5.5%、保護者は6.8%上昇している。また、「わからない・無回答」を除く回答の中では、生徒は92.6%、保護者は90.9%が肯定的回答であり、教師の取り組みが生徒にも保護者にも伝わってきている。	A	10	・研究を通して、先生方が研修を重ね取り組まれたICTを活用した授業が生徒のみならず、学校全体に変化をもたらせたように感じています。また、それが保護者への伝わり、学校への関心も多くなるとともに肯定的な意見が増えて、信頼関係が作られていることをうれしく思い、先生方の熱意に感謝いたします。 ・ICTの活用が効果的に進んでいるように思われる。 ・落ち着いた授業や学校生活が展開されていることも大変評価できるものである。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: A 60% 以上 B 70% 以上		B			2
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: A 40% 以上 B 50% 以上		C			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: A 40% 未満 B 50% 未満		D			
		授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、誰もが落ち着いた学習に取り組める環境づくりを進める。						
プラン6 学校・家庭・地域ともに進める地域教育が一体となって	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: A 90% 以上 B 70% 以上	3 ・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、学期に2～3回更新することができた。 ・地域連絡協議会は、定期的な開催が難しかったが、学校として胸襟を開き、情報を提供している。 ・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、特別支援級への書写指導など多くの事業を継続実施してきた。また、生徒一人一人が将来に夢をもてるよう昨年度に引き続き「職業人の話を聞く会(はばたきプロジェクト)」を開催した。 ・体育祭、文化祭、学校公開などできる限り、保護者が参観できるようにした。 ・ボランティア自体の機会が今年度はほとんどなかった。ボランティアの必要性などを次年度以降、再度指導していく必要がある。	A	7	・コロナ禍による影響は大きいと思いますが、地域に学校を近い位置に置くためには、学校から地域に向けての情報発信に工夫が必要なのかと感じています。 ・次年度よりコミュニティ・スクール設置校の拡充が検討されているとのことなので、教育委員会から地域に向けての発信にも期待いたします。 ・コロナ禍のため、地域に開かれた教育の実現は難しい状況です。 ・地域教育連絡協議会の一員としてコロナ禍で、開催がなかなかでない中で、学校だより「天空の橋」などでは、学校内外の生徒の様子や出来事などを知る上で役立ちました。 ・地域のボランティア活動などなかったが、社会情勢が落ち着いたときに、この二年間のブランクを取り戻してほしいものである。大いに期待しています。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: A 70% 以上 B 50% 以上		B			4
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: A 50% 以上 B 30% 以上		C			
		小中一貫「生活指導スタンダード」「学習指導スタンダード」を保護者に周知し、校区の小中学校と連携・一貫した指導を行う。	1: A 50% 未満 B 30% 未満		D			
		保護者と共に生徒を見守り、生徒が安心・安全に生活できるようPTAのパトロール活動に学校として協力する。						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。